

修学旅行新聞

法人協会 寛田区
財団法人 前千代ビル
研究所 東京都
全国修学旅行研究協会
〒101 東京都千代田区
西神田2-8-2426・2932
電話 (3262) 2426・2932
振替 (東京) 6-36337

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育上極めて重要な存在である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善を努力し、教育効果の向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。
(財団法人 全国修学旅行研究協会の趣意書より)

概算要求額決まる

平成4年度の文部省予算

修学旅行費等の補助金は 今回も大幅に増額

文部省は、八月末に平成四年度予算の概算要求を大蔵省に提出した。これによると、修学旅行費等の国庫補助金は別表に示す金額になっている。
この補助金は、修学旅行や校外活動に必要な費用を補助するため、要保護児童、進歩保護家庭及びへき地校の児童生徒に支給されるものである。今回も、去る六月二十四日

平成4年度修学旅行費補助金概算要求額		
校種	今年度補助金額	来年度概算要求額
小学校	15,200円	17,300円
中学校	42,100円	47,500円

校外活動費(進歩保護児童生徒対象)			
種別	校種	今年度補助金額	来年度概算要求額
宿泊を伴わない	小学校	1,020円	1,160円
	中学校	1,450円	1,660円
宿泊を伴う	小学校	2,520円	2,740円
	中学校	3,970円	4,640円

(上記金額の2分の1が国から補助され、残額については、地方自治体が負担する)

時言

流行より教育論を

編集委員 北條直樹

高知芸芸高校の事故以来、減少気味であった海外修学旅行も、全修協の調査によると、十九県、一政令都市の公立高校で許可され、再び増加の傾向にある。

一方、国内の修学旅行では、京都・奈良が漸減し、東京・近畿・四国など大型遊園地が増加、スキー修学旅行も依然根強いものがあるなど、多様化の傾向がある。また実際の作業を取り入れた体験学習や、特に京都ではタクシー利用の班別自主行動も盛んになりつつある。

これらの傾向には肯定できる面もあるが、問題点も少なくない。

第一に、海外修学旅行については、安全性の確保は言うまでもない。交通機関も施設・設備の状況も異なるとして、教師側の熟知し、周到綿密な準備をすべきである。そして何よりも、なぜ海外に修学旅行先を求めるかを明らかにしておくなければならない。

第二に、国内の修学旅行では、大型遊園地の代表格である東京・近畿・四国が、開園以来入場者数一億を超え、修学旅行生も多い。園内の施設・設備やイベントは、児童生徒の夢を育てるに十分であり、現れとする向きもある。しかし、教育的観点から、京都・奈良の漸減はその一つの現れとする向きもある。

第三に、最近特に強調される体験学習について、単に流行を追うのではなく、目的を明確にし、学校が主体性を持った、地に合った海外修学旅行とすべきである。

第四に、京都では班別自主行動の際、タクシー利用が流行のききを見せ始めている。その功罪については先月の記事のとおりだが、行先が観光バスと同じ清水寺・金閣寺・嵯峨野などであることを考えると、タクシーの利用の意味がどこにあるのか疑われても仕方ない。

第五に、二学期に入り、来年度へ向けて、計画を具体的に進める時期である。この際、単なる流行に惑わされず、教育の本質を考え、学校の主体性をもつ一度洗い直して、意義ある修学旅行計画がなされることを望むものである。

全国大会の対策を協議 平成5年度輸送計画も 関東地区公立中修旅委 第3回研究協議会開く

関東地区公立中修学旅行研究協議会(井桁孝会長・習志野市立第一中学校長)は、九月四日、東京文化会館で開かれ、第八回全国修学旅行研究大会の準備対策、平成五年度修学旅行輸送計画の基本方針等を中心として協議を重ね、それぞれ成果を得た。



野市立第一中学校長(左)は、第三回研究協議会を九月四日、東京文化会館で開かれ、第八回全国修学旅行研究大会の準備対策、平成五年度修学旅行輸送計画の基本方針等を中心として協議を重ね、それぞれ成果を得た。

▽本号8ページ
「修学旅行における旅館のサービスはいかにあるべきか」のパネルディスカッション特集記事を2・7面に掲載し、本号は8ページと致します。

野市立第一中学校長(左)は、第三回研究協議会を九月四日、東京文化会館で開かれ、第八回全国修学旅行研究大会の準備対策、平成五年度修学旅行輸送計画の基本方針等を中心として協議を重ね、それぞれ成果を得た。

風紋

長い夏休みも終了し、新学期が始まった。立秋の前から涼しい日が続いたりもしたが、高校野球や世界陸上が終盤を迎える。暑さが戻る今年の夏であった。

昭和二十年八月十五日は、日本人にとって今世紀最大の出来事であった日といえよう。その前年の夏から大都市の国民学校初等科(今の小学校)を対象に、学童集団疎開が実施された。戦時中、修学旅行は中止されており、見知らぬ土地への旅立ちには、期待に胸を膨らませたりもしたが、無期、飢えや害虫と戦う旅の苦しみは、体験者でなければ分からない。遠州へ疎開したものの、艦砲射撃を避けて津軽へ再疎開した学校や、疎開先の空襲で命を失った者もあった。約一年で終戦。今の天皇も当時、初等科六年生、集団疎開先の日光湯元でこの日を迎えられた。疎開中とせられた、農林業などの勤勞奉仕は、都会の子にとって掛け替えのない経験となった。お百姓さんが百のうちの八十の力を注いで作る「米」が、なぜ敵国の名前なのかと思いつながら自給自足を目指した経験は、今の修学旅行生の体験学習とは大違いだ。秋になり、待ちに待った帰る日が来た。しかし、学校も家も焼失したという。それでも生まれ育った所に帰るのほうれしかった。破れた汽車の窓からは煙を浴びながら「今は鉄橋渡るぞ」と思う間もなく停電のやみを通って焼野原へ。あれから四十六年、体験者は五十年代半ば、日本は夢想だにできない経済大国に、平成の世に幸あれ。

第6回全修協修学旅行セミナー

9月25日 大阪市で開催

財団法人全国修学旅行研究協会(山本種一理事長)では、修学旅行の課題と在るべき姿を追求し研究するため、「修学旅行セミナー」を、本年は次のとおり開催する。

日時 平成三年九月二十五日(水)十三時

会場 大阪市立中央青年センター(JR森ノ宮、地下鉄谷町四丁目)

主催 財団法人全国修学旅行研究協会

後援 文部省、関東・東海・近畿三協会

基調講演 「私の修学旅行」 奈良芸術短期大学 教授 木村芳一氏

記念講演 「修学旅行の課題と使命」 文部省教科調査官渡部邦雄氏

問合せは財団法人全国修学旅行研究協会本部 03・3262・2000

又は大阪事務局 06・202・6500へ。



心にあざやかな想い出、ツールの修学旅行。

修学旅行は、プランニングから実施まで、安全で意義深いものでなければなりません。近畿日本ツーリストでは、修学旅行に必要な事項をキメ細かく網羅した全国地域別「企画書シリーズ」を作成し、ご活用いただいております。さらに、北海道から沖縄まで、修学旅行・ビデオテープ「学習の旅シリーズ」もご用意。学校の教育方針に沿いながらも、生徒ひとりひとりの心に輝く想い出づくりのため、国内・海外のネットワークを駆使して、細心の努力をいたします。

近畿日本ツーリスト

本社 〒101 東京都千代田区神田松永町19-2

支店/国内250店(登録)/海外15店 ◎運輸大臣登録一般旅行業第20号

